

外国語のカタカナ表記はもともと無理を伴うのですが、ラテン語は英語のような曖昧母音がない点で、比較的カ
タカナ表記に適しています。

日本語にはない、母音を伴わない「子音だけ」、は、d, f, g, k, l, m, p, r, s, t などとしました。
同じ意味での n だけは対応する日本語表記「ン」がありますので、「ン」としました。

正確を期するほど難しい表記になりますがご勘弁ください。

日本語にはない、「R」と「L」の識別には、母音を伴う場合対応しておりません。

I. Kyrie

Kyrie eleison. Christe eleison. Kyrie eleison.

【1. キリエ】

キリエ エレイソン. クリステ エレイソン. キリエ エレイソン.

II. Gloria

Gloria in excelsis Deo.

【2. グローリア】

gロリア イン エクシエルシs デオ

Et in terra pax hominibus bonae voluntatis.

Et イン テッラ パクs オミニブs ボネ ヴォルンタティs

Laudamus te. Benedicimus te.

ラウドムs テ. ベネディチムs テ.

Adoramus te. Glorificamus te.

アドラムs テ. gロリフィカムs テ.

Gratias agimus tibi

gラツィアs アジムs ティビ

propter magnam gloriam tuam.

pロプテr マニヤm gロリアm トゥアm

Domine Deus, Rex caelestis,

ドミネ デウス レクス チェレスティs,

Deus Pater omnipotens.

デウス パテr オmニポテンs

Domine Fili unigenite, Jesu Christe.

ドミネ フィリ ウニジェニテ イエス クリステ

Domine Deus, Agnus Dei, Filius Patris.

ドミネ デウス アニユs デイ フィリウス パトリs

Qui tollis peccata mundi, miserere nobis.

クイ トリス ペッカタ ムンディ ミセレレ ノビス

Qui tollis peccata mundi,

クイ トリス ペッカタ ムンディ

suscipe deprecationem nostram.

スシペ デプレカツィオネm ノstram

Qui sedes ad dexteram Patris, miserere nobis.

クィ セデs アd デkstram パトリs ミセレレ ノビス

Quoniam tu solus sanctus,

クオニアm トゥ ソルス サンクトゥs

Tu solus Dominus.

トゥ ソルス ドミヌs

Tu solus Altissimus, Jesu Christe.

トゥ ソルス アルティッシムs イエス クリステ

Cum sancto Spiritu, in gloria Dei Patris,

クm サンクト sピリトゥ イン gロリア デイ パトリs

Amen.

アーメン

III. Credo

Credo in unum Deum, Patrem omnipotentem.

【3. クレド】

クレド イン ウヌm デウム パトレm オmニポテンテム

factorem caeli et terrae,

ファクトレm チェリ Et テッレ

visibilium omnium et invisibilium,

ヴィスイビリウム オmニウム Et インヴィスイビリウム

Et in unum Dominum Jesum Christum,

Et イン ウヌm ドミヌm イエスム クリстуm

Filium Dei unigenitum.

フィリウム デイ ウニジェニトゥm

Et ex Patre natum ante omnia saecula.

Et Eks パトレ ナトゥm アンテ オmニア セクラ

Deum de Deo, lumen de lumine,

デウム デ デオ ルメン デ ルミネ

Deum verum de Deo vero.
Genitum, non factum, consubstantialem Patri:
per quem omnia facta sunt.
Qui propter nos homines,
et propter nostram salutem descendit de caelis.
Et incarnatus est de Spiritu Sancto
ex Maria Virgine:
Et homo factus est.

デウム ヴェルム デ デオ ヴェロ
ジェニトゥム ノン ファクトゥム コンspスタツィアレム パトリ
ペル クエム オムニア ファクタ スント
クイ プロプテール ノス オミネス
エト プロプテール ノストラム サルテム デシェンディット デ チェリス
エト インカルナトゥス エスト デスピリトゥ サンクト
エクス マリア ヴィルジネ
エト オモ ファクトゥス エスト

Crucifixus etiam pro nobis:
sub Pontio Pilato passus, et sepultus est.
Et resurrexit tertia die,
secundum Scripturas.
Et ascendit in caelum:
sedet ad dexteram Patris.
Et iterum venturus est cum gloria iudicare
vivos et mortuos:
cujus regni non erit finis.

クルチフィクス エツィアム プロ ノビス
スツ ポンツィオ ピラト パッス エト セプルトゥス エスト
エト レスレクスイット テルツィア ディエ
セクンドゥム スクリプトゥラス
エト アシェンディット イン チェルム
セデット アド デクステラム パトリス
エト イテルム ヴェントゥルス エスト クム グロリア ユディカレ
ヴィヴオス エト モルトゥオス
クユス レニ ノン エリット フィニス

Et in Spiritum sanctum Dominum,
et vivificantem:
qui ex Patre, Filioque procedit.
Qui cum Patre, et Filio simul adoratur,
et conglorificatur:
qui locutus est per Prophetas.
Et unam sanctam catholicam
et apostolicam Ecclesiam.
Confiteor unum baptisma
in remissionem peccatorum.
Et exspecto resurrectionem mortuorum.
Et vitam venturi saeculi.
Amen.

エト イン スピリトゥム サンクトゥム ドミヌム
エト ヴィヴィフィカンテム
クイ エクス パトレ フィリオクエ プロチエディット
クイ クム パトレ エト フィリオ スィムル アドラトゥール
エト コングルリフィカトゥール
クイ ロクトゥス エスト ペル プロフェタス
エト ウナム サンクタム カトリカム
エト アポストリカム エックレスィアム
コンフィテオール ウヌム バプティスマ
イン レミッスィオネム ペッカトルム
エト エクスペクト レスレクツィオネム モルトゥオルム
エト ヴィタム ヴェントゥリ セクリ
アーメン

IV. Sanctus

Sanctus, sanctus, sanctus
Dominus Deus Sabaoth.

サンクトゥス, サンクトゥス, サンクトゥス,
ドミヌス デウス サバオト

Pleni sunt caeli, et terra gloria tua.
Hosanna in excelsis.

プレニ スント チェリ エト テッラ グロリア トゥア
オサンナ イン エクシエルシス

V. Benedictus

Benedictus qui venit in nomine Domini.
Hosanna in excelsis.

ベネディクトゥス クイ ヴェニット イン ノミネ ドミニ
オサンナ イン エクシエルシス

VI. Agnus Dei

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:

miserere nobis.

Dona nobis pacem.

アニユs デイ クイ トリス ペッカタ ムンディ

ミセレレ ノビス

ドナ ノビス パチェm

hominibus, homo, Sabaoth などの「h」は発音しません。Sabaoth は「Sabaot」の発音になります。

Jesu などの「j」は「i」の発音の子音と考えてください。

Qui などの「qu」は「kw」の発音記号で書かれますが、実際「ku」の発音の子音と考えてください。

consubstantialem, sub Pontio Pilato の「b」は、その後続く無声子音の影響を受けて同化作用をおこし、

ほとんど「p」に近くなった音になります。（Neues Liederschatz I の解説より）